

して彼の主張に全く同感である。膨大な報告書程度の論文を世に送り出すことが勝敗の鍵となる近年の傾向に、Geerts は憤りを感じ、不満の声を挙げている。今後も論文数の増大傾向は避けられないであろう。我々は時代の波に乗り遅れないためにも、その中から優れた論文を見いだす新技術を開発しなければならない。今後、同胞論文の引用のみが益々多くなり、読むための一流雑誌と、書き留めておくための二流雑誌に分極化する事がないよう願う。

要旨の和訳

大気科学部門における22学術雑誌の近年のトレンドを調査したところ、これらの雑誌に発表された論文数は1965～95年の30年間に3倍に膨れ上がったことが解かった。したがって、文献を網羅し先端的学問の発展に遅れずについて行くことが、日々困難になっている、

という問題が浮き彫りにされた。査読審査のある合計1642編の論文を、その要旨と結論の特徴をもとに数値化し分類を行なったところ、雑誌間に特徴的な差異が見られた。多くの雑誌は読者の立場で書かれているとは言いがたく、その特徴はここ数十年間ほとんど改善されていない。近年の傾向として論文の要旨や結論は冗長化かつ散漫化し、一読しても論点を理解しにくくなっている。この傾向は大気科学の発展をむしろ妨げていると言ってよい。したがって、各雑誌編集者はこの点を改善するよう強く望まれる。

参考文献

- Geerts, B., 1999: Trends in atmospheric science journals: A reader's perspective, Bull. Amer. Meteor. Soc., 80, 639-651.



第9回 科学技術振興・推進に関するシンポジウム —科学技術と社会—

日時：平成11年12月17日（金）13：20～17：20

会場：鹿島 KI ビル地下大会議室
東京都港区赤坂6-5-30
(Tel：03-5561-2111)

プログラム

- 13：20～13：30 挨拶 日本工学会会長 大橋 秀雄
13：30～14：10 基調講演
「何故“科学・技術と社会”なのか」
国際基督教大学教授 村上陽一郎
14：10～14：50 基調講演
「21世紀の工学像」
東京大学工学部長 中島 尚正
15：00～15：20 話題提供
「科学技術と社会、その背景」
電気通信大学助教授 小林 信一
15：20～15：40 話題提供
「科学技術史からのアプローチ」

東京工業大学助教授 中島 秀人

15：50～17：20 パネルディスカッション

- 司会：富浦 梓 新日本製鐵(株)顧問
パネラー：小林 信一 電気通信大学助教授
中島 秀人 東京工業大学助教授
西村 吉雄 日経 BP 社編集委員
橋本 典子 青山学院大学教授
石田 秀輝 (株)INAX 空間デザイン研究所長

参加費 3,000円（含資料代）懇親会費 7,000円

参加申込：往復ハガキに、氏名・勤務先・同住所・同電話番号・所属学協会名を明記し、返信ハガキ表に通信先住所・氏名をご記入の上、下記に申し込んで下さい。
〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41
乃木坂ビル 日本工学会
Tel：03-3475-4621 FAX：03-3403-1738